

あなたにしかない正解を

あなたには夢がありますか？遠い将来の話ではなく。今、あなたは何がしたいですか？

自分は何のために受験をするのか。何がしたいのか。私にしかないものは何か。どこにゴールがあるのか。私にとって受験は、あらためて多くのことを考え直す機会となりました。

私には小学生の頃から「法律家になりたい」という夢がありました。だから将来は法学部に進学

する、そう思い、文理選択も進学先の学部も、迷うことはありませんでした。それが正しかったのかは分かりません。でも後悔はしていません。なぜなら自分で決めたことだから。これを読んでいるあなたに伝えたいことの一つは、じっくり考えて、悩んで、迷って、自分の意志で決断してほしいということです。

当たり前だと思うかもしれない。でも、本当にそれは自分がやりたいことなのか、周りに流されてはいないか、よく考えてみてく

ださい。私の友人に受験はせず、海外の大学に入学する人がいます。私と同じ時期まで一緒に受験勉強をしていた友人です。大学に行って薬剤師になって安定した職につく、そう思い勉強してきたけれど、直前になってやはり前々から興味があったことをやりたい、と。センター試験を受け大学進学するのが当たり前のこの時代に、そう決断した彼女にととても感銘を受けました。

私が受けた入試で問われたことも学力だけではなく名前を通

り、自身の「志」を問うものでした。今年からの入試方式で過去問も参考にできる話もなく、普段の受験勉強の妨げとなるのではないか、この短い期間で書類を書き上げることはできるのか、そもそも私よりも素晴らしい経歴を持った人たちに勝てるのか、様々な不安はあったものの、挑戦してみようと決め受験しました。そこで直面した問い、それが冒頭で述べたものです。この入試の受験期間は、ただ問題を解くだけではない、「自分」を見つめ直す期間で

もありました。

もともと私にとって「勉強」はあまり苦痛なものではありませんでした。小学1年生の時、暇を持て余していた私は勉強というものを知り、いわゆる超進学塾に喜んで通い全国小学統一テストでは2位の成績をもつような少し変わった子供でした。しかし中学に入り一変。テスト1週間前に焦って詰め込み終われば忘れる。なんてもったいないことをしていたのか、と思う反面、結果的に自分のための時間を思う存分過ごせた中学

生活があったからこそ、高校3年間を部活に注ぐことができたと思っています。そしてそれはこの入試で合格できた一因にもなりました。だから結局何が正解だったかなんて誰にも分かりません。

ただ、ここで二つ目に言いたいことはどんなに自分のやりたいことを追求したとしても勉強する習慣はつけてほしいということ。部活しながら塾の勉強に学校の予習復習、長期休みの課題。高1での、受験の実感が湧かないまま、ただただ「こなす」勉強自体に正

直意味があったとは思えません。しかし、どれだけ部活で疲れていても数時間でも数十分でも毎日机に向かうことが当たり前になりました。それが受験という大きな壁を乗り越えるための一つの武器になったと確信しています。

そしてもう一つ、自分の置かれた環境を言い訳にするのではなくプラスに変え、また感謝できる人であってください。私は特に高3の引退後、あらためて時間が無いことを痛感し、かなり精神的に追い込まれていました。周りをみ

る余裕も無くそのせいで誰かを傷つけたこともありました。しかし受験が終わり振り返れば、沢山の人のおかげで掴んだ合格であると感じます。あらゆるサポートをしてくださった担任の先生、色々な相談にのってくれた塾の先生、ずっと近くで頑張ってきた仲間、雑談や愚痴に付き合ってくれた友人、いつも刺激をくれる後輩。そして受験においてだけでなく、私が下す決断を頭ごなしに否定することなく尊重し、今まで見守ってくれた親。自分がどんなに恵まれ

ていたのか、受験というプレッシャーから解放され、視界が開けたとき、きっとそのことに気づくはず
です。そしてあなたの合格という朗報と共に、感謝の気持ちを伝えてほしいというのが私の最後の願いです。